



## 沖縄県名護市辺野古地区への新基地建設の白紙撤回及び 普天間基地の即時撤去を求める請願書

2007年 月 日

衆議院議長 殿  
参議院議長 殿

### 請願趣旨

現在、日本政府は、普天間基地の「代替施設」建設の名目で、沖縄県名護市辺野古への新基地建設計画のための準備を進めています。しかしながら、事の発端となった 1995 年の少女暴行事件の際に、沖縄の人々が求めたのは普天間基地の即時撤去であり、「基地のない平和な島」であったはずです。それがいつの間にか、普天間基地の「代替施設」建設へとすり替えられてしまいました。名護市辺野古においては、1966 年に米軍が当該の地に基地建設を計画していたというマスタープランが存在しており、これはもはや「代替施設建設」ではなく、「沖縄の負担軽減」を謳いながら、実際には老朽化した施設を返還し、同時に最新鋭の基地を建設するものに他なりません。

私たちは、多くの人びとの命を奪う戦争のための基地、そして、人々に多大な苦しみをもたらす事件・事故、騒音被害、環境破壊、米軍人・軍属によるレイプ等の犯罪の元凶となる基地はいらない

という思いから、この基地建設計画に反対してきました。

こうした取り組みは、赤穂、大分、大阪、京都、滋賀、東京、長野、名古屋、福岡、那覇、名護など各地で、既に 3 年近くにも及び取り組まれ続けており、この国会請願も、そうした全国各地の行動が手をつなぎ実現しました。また、1997 年の名護市民投票で示されたように、沖縄に住む多くの人々はこの建設計画に反対しており、辺野古現地での座り込みも、既に 3 年以上続いています。当初の建設計画である「沖合い案」は 2005 年に一旦「断念」されたにもかかわらず、あくまでも辺野古への基地建設を推し進める日本政府に対して強い憤りを禁じ得ません。

沖縄の人々が、基地のない島で、平和で豊かな生活を営むため、そして世界に住む人々の生命を破壊する戦争のための基地をなくすために、以下の 2 点の即時実現を求めます。